

令和5年度 第2回福祉のまちづくり研究所企画運営委員会調査研究部会【事前評価】

No.	研究課題名	コメント
1	令和6年度新規研究課題 高齢者・障害者の坂道移動に関する評価手法の開発	<ul style="list-style-type: none"> ・坂道の困難度を示す経路案内地図システムを実用化レベルにまで完成させており高く評価できる。高齢者・障害者の一人で外出する時の大きな助けになると期待される。研究者の高い独創性が認められる。 ・実用化・製品化を目指している点も高く評価できる。 ・バリア情報は社会環境整備による変動要因が大きく、常に正確なバリア情報の収集方法などの検討も望まれる。 ・情報として現状の坂道の勾配以外の要素についても検討していくべきと考える。実用化の視点からの研究開発をさらに発展させていただきたい。 ・研究上、1年で終了するとは考えられないので、しっかりとした研究計画を立てていただきたい。
2	令和6年度新規研究課題 モーションパラメータとAIを活用した応用技術開発	<ul style="list-style-type: none"> ・AI技術を活用した技術開発の継続課題としてこれまで蓄積してきた認知症高齢者等への予防介護へのノウハウや種々のデータを最新のAI技術を活用して適用範囲のさらなる拡大を図る先駆的な取り組みとして評価できる。 ・高齢者や障害者の身体機能の向上や自律支援を補助するための新たな開発として本研究はリハビリテーションの現場や健康教室における効果的な介入を支援するシステム開発の必要性は高く評価される。 ・企業との連携を進め、低価格で提供するための技術開発を行うことが望ましい。 ・筋電義手操作トレーニングやRoboWEL体操と連携しながら、「福祉のまちづくり研究所ならでは」という独創性の高い研究成果を目指して研究を進めることが望ましい。 ・研究所の恵まれた環境を活かした成果を期待したい。それには、多くの機関や職種と連携を持っているので、その連携をより深めていただくことが必要と思われる。